

40歳から伸びる人 40歳で止まる人

川北義則著

ちょっと疲れてコンビニエンスストアに入ったときに目にした本です。全体を通して言っていることは、常々言われている当たり前のことを当たり前に行えば”40歳からでも伸びる”ということです。例えば、「単純な正義感でものを見るのをやめよう」では、表面に現れたことだけで物事を判断しては、真実を見誤る。「いい人」と呼ばれないようにしたい」では、「中年以上の人間を『いい人』と他人が評価するときは、むしろ侮蔑の意味合いを含んでいることがほとんどだ」とありました。私も『いい人』であるべきと常々行動していた。著者は、「『いい人』といわれて、ヤニ下がっているようではオメデタイ」とズバツと切っている。他にも耳の痛いというより、あああ・・・と声が出そうなものばかりでした。さらに、人間の心は四つの窓に分けることができる」と書かれています。第一は「明るい窓」。自分も分かるが他人にも理解することができる心の部分。第二の窓は「閉ざされた窓」。他人に窺い知れない心の部分。第三の窓は「盲目の窓」。自分は気づいていないが他人に見透かされている心の部分。そして第四の窓は「暗黒の窓」。当人も他人も理解不能な心の窓、と書かれています。自分のことを分かってくれない、悪意がないのに誤解されると思いがち。そう思う前に自分では気づかないようにしているが、第一、第三の窓を通じて他人からは見え見えの悪意があることを知る、ということを変更して教えてくれた本です。

Y・C・



掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞